

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分  
電話 56-3131(呼)・有線2190(呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時  
電話 56-1076(呼)・有線2251(呼)
- 立科町児童館/  
午前 11時40分～午後1時30分  
電話 56-0303(直通)  
有線 8889(直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の  
教頭先生へご連絡をお願いします。

# 子どもの成長に合わせた メディアの与え方

## ～ ネット社会における望ましい子育て～

立科町教育相談員 岩上起美男

平成22年10月、立科中学校で行われた立科町青少年育成講演会(演題「子どもの劣化をくい止めるために」)において、講師の清川輝基氏が、「テレビやビデオ、ゲーム、携帯電話、パソコンなどの電子映像メディア(液晶画面)に、乳幼児のころからとっぷり漬かっている日本の子どもは、『絶滅危惧種』である。」と指摘しました。

「絶滅危惧種」とは、現在の圧迫状態をもたらした要因や環境が継続して作用するならば、その存続が困難なものとなり、絶滅せざるを得ない生物種です。

清川氏は、必ずしも、保護されなければ、地球上からいなくなってしまうと言われるパンダやコウノトリ、朱鷺、雷鳥などの絶滅危惧動物のように、地球に共存する生物の一員としての絶滅を警告したのではないと思います。子どもの生命や存在そのものの絶滅ではなく、「絶滅危惧種」という比喩(たとえ)によって、「メディア漬け」になっている日本の子どもの「心」と「体」の危機的な状況に對して、警鐘を乱打したのでしよう。

それに致しましても、やはり「絶滅危惧種」という指摘は、非常にショッキングでした。今まで、「心の壊れた子どもたち」や「心の空洞化」「宇宙人」など、日本の子どもの実態を形容する悲観的な言

葉を何度も耳にしましたが、そのいずれも、「絶滅危惧種」という言葉が意味する深刻さとは比べようもないからです。

講演会から3年数ヶ月経った今、この危機的な状況は、改善の方向に向かっていくのでしょうか。

そうあってほしいと切に願っています。が、決して楽観的な状況ではないと思われま。むしろ、清川氏の指摘は、今日の子どもの本質と課題を的確に言い当てているのではないかと感じています。

2ヶ月ほど前、小学生(低学年)男児から、「キミ、キミ、そのキミ。」と呼ばれました。今まで、児童・生徒から面と向かって、「キミ」と言われた記憶がありませんので、思わず、「私のこと?」と問い返しました。

「そう、キミ。キミ、キミだよ。」小学生に「キミ」と言われる、還暦をとうに過ぎた老いの身を何となく情けなく思い、そう言われる理由が自分にあるのだらう、と自己反省しながら、「大人にキミなんて言っちゃあ、駄目なんだよ。キミって、友だちや年下の子に言う言葉だよ。」と諭しました。すると、改めるどころか、大人に對する不信任や攻撃性のスイッチが入ってしまったかのように、

さらに激しく、「キミ、キミ、キミ。」と連呼しました。

おそらく、「キミ」という呼び方は、その子なりの親しみの表現で、それが失礼に当たらないことを知らないだけなのでしょう。必死に、そう理解しようと思いつつながら、このようなとき、どうしても「絶滅危惧種」という五文字が頭をよぎっていきます。

教師や保育士、厚生員など、日々大勢の子どもに接している方は、このような事例、すなわち、乳幼児期からの電子映像メディア漬けの生活を原因や背景とする、子どもたちの「直接経験の不足」及び「希薄な人間関係」「未熟な人間関係構築(修復)力」「対人マナーの欠如」を実感する場面を、日常的に体験しているのではないのでしょうか。

§

ネット社会における子育ての難しさと配慮について、子どものインターネット利用を考える「ねちずん村」を立ち上げ、電子映像メディアの危険性をずっと訴え続けている群馬大学の下田博次教授が、次のように提言しています。

情報化社会に育つ子どもの成長環境には、従来の「豊かな自然環境」と「充実した社会・文化環境」などに加え、「好ましい情報環境」が必須である。